

# 今、気になる TOPICS

さまざまな事情から精神科を受診できない認知症高齢者を訪問し、精神科医療を提供することで、人生を支えたい……。こうしたいで、在宅や介護施設への訪問診療を積極的に行っているのが海上療養所(千葉県旭市)の上野秀樹医師だ。抑うつや興奮、暴力、妄想など、介護だけでは対応に限界のある認知症の周辺症状も、適切な精神科医療を外付けで利用できるようなれば改善し、在宅や施設で生活し続けられると訴えている。

(大元美樹)

「どうですか、調子は」鈴木明子さん(仮名)は、2月のある日、上野医師 すぐに市内の精神科に連絡は、千葉県銚子市にある自立型のケアハウスに入居する80代の女性Aさんの部屋を訪問していた。「まあ先生、お待ちしました」。Aさんが笑顔で部屋に招き入れる。

1人暮らしをしていたAさんは、軽い認知症が出てきたため、2年前に入居した。しばらくすると、抑うつ症状や幻覚症状が強くなり、ベランダから飛び降りて自殺を図ろうとした。

## 認知症患者への精神科医療

### 入院ではなく訪問診療で施設や在宅での生活継続

と連絡したのが隣接する旭市の上野医師だった。「今から来ていいですよ」。早速、車で病院に連れていくと、Aさんは幻覚に悩まされていたことなどを堰を切ったように話した。



Aさんの部屋を訪問し、話を聞く上野医師。「診察室とは違い、生活の場に行くそのまま分かる」

チェックし、こまめに調整をするためだ。Aさんはよく眠れるようになり、その後も上野医師は時々Aさんを訪問している。

「先生にいろいろお話を聞いてもらったおかげで、今は変なもの全然出なくなりました(Aさん)」。鈴木さんも「本当に助かりました。もし受診できないようなら、介護付きケアハウスに移ってもらおうと思っただけですが、ご本人が経済的理由で難しいと話されていたのでどうしたものか……と考えていました。携帯の番号も教えてもらい、心強かった」と話す。

「認知症のBPSDがある人は、多くは医者嫌い、病院嫌いで精神科の受診を拒むためアクセスも遅れがちです。近隣に迷惑がかかるとなってしまうのです」。実際には、精神科の病棟に入院したものの、簡単な薬物療法で一気に改善する患者も多いという。入院までもしなくても、在宅や施設での生活が続けられたという。こちらから出向こう。09

赴任後、物忘れ外来を開設したものの、新規患者は月に1〜2人。「それならこちらから出向こう。09年11月、患者の自宅や介護施設などを訪問する精神科訪問診療を開始した。旭市を拠点に銚子市、匝瑳市など片道30キロ圏内の在宅や病院、介護施設を車で訪問している。訪問診療の累積患者数は300人を超え、130人は急性期病院をはじめ、特養やグループホーム、有料老人ホーム

などに入院・入所している認知症高齢者で、介護施設からのニーズも高い。認知症の周辺症状(BPSD)には、不安、抑うつ、徘徊、物を盗られたなどの妄想、暴言、暴力などがある。原因は「周囲の環境に反応して現れるもの」や「元々の精神疾患に起因するもの」「せん妄状態」など。周囲環境に対する反応なら介護による対応で改善するが、そのほかは精神科医療の介入が必要なこと

も少なくない。「認知症のBPSDがある人は、多くは医者嫌い、病院嫌いで精神科の受診を拒むためアクセスも遅れがちです。近隣に迷惑がかかるとなってしまうのです」。実際には、精神科の病棟に入院したものの、簡単な薬物療法で一気に改善する患者も多いという。入院までもしなくても、在宅や施設での生活が続けられたという。こちらから出向こう。09

「認知症高齢者の精神科病棟への入院はできるだけ避けたい」と考えている。精神科病棟は生活の場ではないため、元々周囲の環境に反応して精神症状を生じやすい認知症高齢者にとって、入院治療によって却って症状が悪化する可能性がある。A.D.Lが低下し

たり、入院期間が長期化しやすいとデメリットが多いからだ。千葉県横芝光町の特養ホーム「第二松丘園」も、現在7人の入所者が精神科訪問診療を利用している。

2年前に入居したBさんは要介護4。認知症のある90歳の女性だ。入居中に転倒して骨折したため、一般病棟の整形外科に入院したが、夜になると不穏になり、暴力的になったため、退院を迫られた。施設に戻ったものの、介護拒否は続いた。そこで、上野医師に訪問診療を依頼。薬物療法で症状は落ち着き、施設で生活を続けている。

全国的にはわずかな実践例ながらも効果を上げている精神科の訪問診療。しかし、現実には、認知症高齢者の精神科病院への入院は年々増えている。厚生労働省の調査によると、12年前の1.8倍に増加。治療技術の進歩で統合失調症の長期入院が減ったため、病棟側が代わりに認知症患者でベッドを埋めているとの指摘もある。上野医師は、入院医療中心の精神科医療を変え、在宅・訪問診療にマンパワーを振り向けるべきだと強調する。「精神科医による訪問診療が外付けサービスとして広まれば、精神科のない病院や介護施設からの入院を大幅に減らすことができ、入院への連鎖を断ち切り、今いる場所での高齢者の生活を援助することができると力を入れている。

この度の沖地震で被災されたご家族の方様に心よりお慶び申し上げます。大がかり、首が経つ、首の出始めて私の相談被災地から来たため、方の相談が都内にお住居の方から不安から入り入りました。茨城の高野では、入居できる入居できない、いくつかの被災地や、計画停電に不安な人や家族が

